

科目名	社会保険制度						
科目名(英)	Social security system						
単位数	4単位(2)	時間数	60(30時間)	担当者	坂本 毅啓		
実施年度	2020年度	実施時期	通年(前期)	担当者実務経験	大学教諭		
対象学科・学年	介護福祉科 2年						
授業概要	介護実践に必要な知識という観点から、介護保険や高齢者や障害者自立支援法を中心に、社会保険の制度、施策についての基礎的な知識を身につける。また、利用者の権利擁護の視点及び職業倫理観を養う。						
授業形式	講義: ○	演習: △	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○					わが国の社会保険の基本的な考え方、歴史と変遷、しくみについて理解できる。	
	○					介護に関する近年の社会保険制度の大きな変化である介護保険制度と障害者自立支援制度について、介護実践に必要な観点から基礎的な知識を習得できる。	
	○					介護実践に必要とされる観点から、個人情報保護や成年後見制度などの基礎的な知識を習得できる。	
テキスト・教材 参考図書	中央法規出版 介護福祉士養成講座2 社会と制度の理解						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	社会保険の基本的な考え方				教科書の該当ページを読んでおくこと。	
	2	日本の社会保険制度の発達①欧米				"	
	3	日本の社会保険制度の発達②日本				"	
	4	日本の社会保険制度のしくみ①制度体系				"	
	5	日本の社会保険制度のしくみ②財政				"	
	6	現代社会と社会保険制度①ライフサイクルとライフコース				"	
	7	現代社会と社会保険制度②社会保障と税の一体改革				"	
	8	現代社会における生活課題①少子高齢化				"	
	9	現代社会における生活課題②労働問題				"	
	10	現代社会における生活課題③国際化				"	
	11	関連制度:生活保護制度①制度概要				"	
	12	関連制度:生活保護制度②貧困と介護				"	
	13	関連制度:生活困窮者自立支援制度				"	
	14	関連制度:社会手当制度				"	
	15	まとめ				"	
評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する。(2)講義中に小テストを実施する。(3)宿題で課題レポートを実施する。 (4)制度について調べ、Pポイントを作成し、発表する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	◎					50%
	小テスト	◎					10%
	宿題・レポート	◎					10%
	発表・視覚的資料		◎				30%
履修上の注意							

科目名	介護の基本 I (総合)						
科目名(英)							
単位数	2単位	時間数	30時間	担当者	大島夕子		
実施年度	2020年度	実施時期	前期	担当者実務経験	福祉施設にて介護福祉士として勤務		
対象学科・学年	介護福祉科 2年						
授業概要	介護福祉の基本となる理念や、地域を基盤とした生活の継続性を支援するためのしくみを理解し、介護福祉の専門職としての能力と態度を養うための科目である。「介護の基本 I (総合)」では、「介護福祉の基本となる理念」「介護福祉士の役割と機能」「介護福祉士の倫理」「自立に向けた介護」について学び、介護福祉士国家試験に必要な知識の定着をはかる。						
授業形式	講義:	演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
		○		○		ICFにおける生活機能と各因子の相互作用についての関連付けができる。	
	○	○		○		ICFやストレングスの視点を介護の実践に応用できる。	
	○	○		○		自立支援とリハビリテーションの考え方について説明することができる。	
		○		○		介護を必要とする者の、生活とリハビリの関係づけができる。	
テキスト・教材 参考図書	介護福祉士養成講座3 介護の基本 I 中央法規 介護福祉用語辞典						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	ICF			授業内容の復習を実施すること。 次回授業範囲のテキストを読んでおく		
	2	自立支援とリハビリテーション①			授業内容の復習を実施すること。 次回授業範囲のテキストを読んでおく		
	3	自立支援とリハビリテーション②			授業内容の復習を実施すること。 次回授業範囲のテキストを読んでおく		
	4	自立支援とリハビリテーション③			授業内容の復習を実施すること。 次回授業範囲のテキストを読んでおく		
	5	自立支援と介護予防①			授業内容の復習を実施すること。 次回授業範囲のテキストを読んでおく		
	6	自立支援と介護予防②			授業内容の復習を実施すること。 次回授業範囲のテキストを読んでおく		
	7	自立支援と介護予防③			授業内容の復習を実施すること。 次回授業範囲のテキストを読んでおく		
	8	介護の基本 I 国家試験対策①			授業内で解いた問題の復習をしておくこと。30分		
	9	介護の基本 I 国家試験対策②			授業内で解いた問題の復習をしておくこと。30分		
	10	介護の基本 I 国家試験対策③			授業内で解いた問題の復習をしておくこと。30分		
	11	介護の基本 I 国家試験対策④			授業内で解いた問題の復習をしておくこと。30分		
	12	介護の基本 I 国家試験対策⑤			授業内で解いた問題の復習をしておくこと。30分		
	13	介護の基本 I 国家試験対策⑥			授業内で解いた問題の復習をしておくこと。30分		
	14	定期試験対策①					
15	定期試験対策②						
評価方法	(1)授業の中で確認テストを実施する。(2)定期試験は(筆記)試験とする。(3)ノート提出を実施する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	○	○				50%
	確認テスト	○	○				30%
	ノート提出		○		○		20%
履修上の注意	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ノート・プリント整理を行っておくこと。予習、復習の内容を含む(確認実施)。</li> <li>・確認テストについては、必ず提出すること。 ・授業中の居眠りについては欠課とする。</li> </ul>						

科目名	生活支援技術 I B(栄養調理・調理実習)						
科目名(英)	nutrition-cooking						
単位数	2単位	時間数	30時間	担当者	磯 孝子		
実施年度	2020年度	実施時期	前期	担当者実務経験	短大にて教員として勤務		
対象学科・学年	介護福祉科2年						
授業概要	栄養素に関する知識の理解及び確認・衛生に関する事項・食品群・添加物・食中毒についての理解と確認。実際の調理実習の方向性・注意事項(ケガ・ヤケド)・実習の態度のあり方。食事マナーの理解。一回食の内容と理解・介護食の理解と確認						
授業形式	講義: △	演習:	実習: ○	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○					栄養素の働きが人体に及ぼすことを学び理解したことを説明できる。	
		○				調理実習を行うにあたり注意点や方法を理解することができる	
		○		○		包丁の持ち方・切り方ができて安全で衛生的な料理を作ることができる	
	○	○				作成(出来上がった料理)した料理への興味と感性を確かめ、それについて発表できる。	
○	○				健康な人・高齢者(疾病を含む)食事についての献立や調理方法を学び説明できる。		
テキスト・教材 参考図書	生活支援技術 I (新・介護福祉士養成講座) 第4版 調理実習 大谷貴美子 饗庭 照美編者 印刷物(基礎調理の理解・献立表)他						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	講座1 栄養素や関する知識の理解及び確認・衛生に関する事項			教科書の該当範囲を読んで理解しておく		
	2	講座2 実際の調理実習を行うための献立内容及び諸注意			次回から調理実習に入る為、献立表の見方の理解と確認・身支度についての理解		
	3	実習1. 日本料理基礎 ①白米飯 ②はんぺんのすまし汁			第1回の調理実習内容の理解		
	4	③煮魚 ④ほうれん草のごまあえ ⑤抹茶まんじゅう			第2回実習担当の記録・第1回の記録提出		
	5	実習2. 西洋料理基礎 ①ライス ②コンソメジュレーヌ			第2回実習の担当 内容表の確認と記録		
	6	③ハンバーグステーキ ④ミモザサラダ ⑤ブラマンシュ			表の提出・第3回の実習担当確認		
	7	実習3. 中国料理基礎・応用 ①什錦炒飯			第3回の実習担当表の確認		
	8	②四宝湯 ③青椒肉絲 ④杏仁豆腐			第4回の実習担当の確認		
	9	実習4 日本料理応用 ①親子丼 ②かみなり汁			第3回の実習記録表の提出		
	10	③茶碗蒸し ④水ようかん			第5回実習担当の確認		
	11	実習5. さまざまな制限のある場合の工夫料理			第4回実習記録表の提出		
	12	①五目たまご飯 ②白あえ ③鶏肉の香草焼 ④わらび餅			第6回実習担当内容の確認		
	13	実習6. 西洋料理応用 ①ライス ②ヴィシソワーズ			実習最後のための実習内容の充実		
	14	③サーモンのムニエル ④マドレーヌ			第6回実施記録の提出、次回の予告		
15	講座3 1~2回の講義のまとめ 3~14回の実習のまとめ			第6回の終わり、テキスト、献立表持参の届け出			
評価方法	(1)授業中は毎回衛生と安全な料理ができるよう理解と発表を行う (2)毎回各自の実習内容の記録の実習後の記録を提出させる (3)定期試験を行う						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	○					50%
	小テスト(実習)				◎		35%
	レポート		◎		○		10%
	発表	◎			○		5%
履修上の注意	直接実習の為・安全・衛生的な行動 実習中の諸注意の確認						

科目名	生活支援技術Ⅲ(形態別介護技術)						
科目名(英)							
単位数	4単位(2)	時間数	60(30時間)	担当者	江下 馨		
実施年度	2020年度	実施時期	通年(前期)	担当者実務経験	高齢者施設 福祉事業所勤務実績		
対象学科・学年	介護福祉科 2年						
授業概要	障害や疾病のある人について医学的・心理的側面から理解すること、生活上の困りごとを理解すること、障害や疾病のある人への生活支援において介護福祉士が果たすべき役割を理解すること。						
授業形式	講義: ○	演習: △	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○					国家試験過去問に正答できる。	
	○		○	○		疾患を理解した介助、安全面の配慮ができる。	
	○	○				疾患を理解した生活上の困りごとを説明できる。	
	○	○				家族や本人の背景に配慮した自分の見解を述べるができる。	
テキスト・教材 参考図書	中央法規 介護福祉士養成講座 生活支援技術Ⅲ						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	視覚障害者に応じた介護 科目概要、視覚障害の定義、不便さ				配付プリント、教科書との関連性を確認しておくこと	
	2	視覚障害者に応じた介護 支援の展開1(学内演習)				配付プリントを確認すること	
	3	視覚障害者に応じた介護 支援の展開2(学外演習)				グループで支援の目的を確認しておくこと	
	4	視覚障害者に応じた介護 演習振り返り 1				グループで支援の目的を確認しておくこと	
	5	知的障害に応じた介護 知的障害の特徴、定義				当該範囲を確認すること 配付プリント・教科書の関連箇所を確認する	
	6	知的障害に応じた介護 取り巻く環境や社会的支援の在り方				当該範囲を確認すること 配付プリント・教科書の関連箇所を確認する	
	7	知的障害に応じた介護 知的機能低下に伴う行動特性				当該範囲を確認すること	
	8	発達障害に応じた介護 自閉症の理解 1				復習しておくこと	
	9	発達障害に応じた介護 自閉症の理解 2				当該範囲を確認すること 配付プリント・教科書の関連箇所を確認する	
	10	発達障害に応じた介護 発達障害の定義・診断・特性				当該範囲を確認すること 配付プリント・教科書の関連箇所を確認する	
	11	発達障害に応じた介護 ASD・ADHD・LD特性の理解				当該範囲を確認すること 配付プリント・教科書の関連箇所を確認する	
	12	高次脳機能障害に応じた介護 理解と定義				復習しておくこと	
	13	高次脳機能障害に応じた介護 症状と特徴				当該範囲を確認すること 配付プリント・教科書の関連箇所を確認する	
	14	重症心身障害に応じた介護 原因、定義				当該範囲を確認すること 配付プリント・教科書の関連箇所を確認する	
	15	前期 振り返り 確認テスト				復習しておくこと	
評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する。(2)演習を実施し、学びの発表を行う以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	○					50%
	演習・発表	○	○	○	○		50%
履修上の注意	演習時忘れ物をしないこと。評価に関わる項目で、意欲的な取り組みが見られない場合は、欠課扱いとする。						

科目名	介護過程Ⅱ					
科目名(英)						
単位数	4単位	時間数	60時間	担当者	江下 馨	
実施年度	2020年度	実施時期	前期	担当者実務経験	高齢者施設 福祉事業所勤務実績	
対象学科・学年	介護福祉科 2年					
授業概要	介護福祉士には専門的知識、技術を根拠とした客観的で科学的な思考過程による介護過程の展開能力が求められる。 介護過程の展開に基づいた生活支援が利用者の「尊厳を守るケア」「個別ケア」を実現することを理解する。 介護福祉士の援助の根拠、その援助が利用者の生活をどのように支え、質の向上に繋がるかを学ぶ。					
授業形式	講義: ○	演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△	
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標
	○					国家試験過去問に正答できる。
	○	○				事例のアセスメントの不足部分を考え、アセスメントを完成させることができる。
	○	○		○		担当利用者の介護過程の展開が出来、発表ができる。
	○	○		○		他者の発表に対し、疑問点を質問することができる。
テキスト・教材 参考図書	中央法規 新介護福祉士養成講座 介護過程					
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示	
	1	介護過程 過去問題 事例			事例プリント読み込むこと	
	2	過去問題 解答 アセスメントの復習 事例検討			プリントを確認すること	
	3	アセスメントの実際 1 情報収集			各自で取り組み、授業の準備ができるようにしておく	
	4	アセスメントの実際 2 情報の捉え方			各自で取り組み、授業の準備ができるようにしておく	
	5	アセスメントの実際 3 課題分析			各自で取り組み、授業の準備ができるようにしておく	
	6	事例検討 担当利用者のアセスメント 1			実習Ⅱファイル持参	
	7	事例検討 担当利用者のアセスメント 2			実習Ⅱファイル持参	
	8	事例検討 担当利用者のアセスメント 3			実習Ⅱファイル持参	
	9	アセスメント表の作成 1			当該範囲を確認すること	
	10	アセスメント表の作成 2			当該範囲を確認すること	
	11	アセスメント表の作成 3			当該範囲を確認すること	
	12	アセスメント表の作成 1			当該範囲を確認すること	
	13	アセスメント表の作成 2			当該範囲を確認すること	
	14	アセスメント表の作成 3			当該範囲を確認すること	
	15	アセスメントの振り返り				
	16	計画の立案 1 意義と目的 ケアプランとの連動			当該範囲を確認すること	
	17	計画の立案 2 短期目標、長期目標、設定方法			当該範囲を確認すること	
	18	計画の立案 3 支援内容、支援方法の留意点			当該範囲を確認すること	
	19	事例発表作成 1			各自で取り組み、授業の準備ができるようにしておく	
	20	事例発表作成 2			各自で取り組み、授業の準備ができるようにしておく	
	21	事例発表作成 3			各自で取り組み、授業の準備ができるようにしておく	
	22	事例発表作成 4			各自で取り組み、授業の準備ができるようにしておく	
	23	事例発表作成 5			各自で取り組み、授業の準備ができるようにしておく	
	24	事例発表作成 6			リハーサル準備 評価方法を確認しておく	
25	発表・評価					

	26	発表・評価					
	27	実習Ⅲ 担当利用者 介護過程展開 1 意義目的 アセスメントの確認				実習Ⅲ 日程を確認する	
	28	実習Ⅲ 担当利用者 介護過程展開 2 展開方法、スケジュール確認				実習Ⅲ 日程を確認する	
	29	実施2 実施の際の留意点 評価				ファイル整理しておく	
	30	評価2 意義目的・評価の方法・留意点				ファイル整理しておく	
評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する。(2)担当利用者の事例を発表し、教員評価、学生評価を総合的に全体評価とする。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	○					50%
	発表	○	○		○		40%
	事例	○	○		○		10%
履修上の注意	1年次からのファイルを使用する。発表時に欠席をしないこと。注意しても15分以上の著しい居眠り等は欠課扱いとする。						

科目名	介護総合演習Ⅱ						
科目名(英)							
単位数	2単位	時間数	30時間	担当者	角屋 佳代		
実施年度	2020年度	実施時期	前期	担当者実務経験	看護師として病院・クリニックに勤務 ケアマネとして居宅支援事業所勤務		
対象学科・学年	介護福祉科2年						
授業概要	この科目では、実習の事前の準備や事後に実習体験を整理することで介護実践に必要な知識や技術の統合を行う。加えて介護観を形成し専門職としての態度を養う学習とする。						
授業形式	講義 ○	演習: △	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				各実習の目標を理解し、目標達成のための具体的な行動を考えることができる。	
	○	○		○		実習施設の種別について理解し学びを共有できる	
	○	○		○		実習の学びから介護福祉士の専門性について根拠に基づく自分の考えを述べる事が出来る	
	○	○				実習の学びから具体的なキャリアビジョンを考えることができる。	
テキスト・教材 参考図書	「中央法規 介護総合演習・介護実習」						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	居宅系実習の流れ説明 記録物作成				配属発表以後、施設について調べておくこと(1時間)	
	2	実習前指導(実習前面接)				実習の目的について明確にしておく(0.5時間)	
	3	実習前指導(実習前面接)				実習の目的について明確にしておく(0.5時間)	
	4	施設オリエンテーション				確認すべき内容についてあらかじめ調べておくこと(0.5時間)	
	5	施設オリエンテーション				確認すべき内容についてあらかじめ調べておくこと(0.5時間)	
	6	事前指導(居宅実習)				実習目的を把握しておくこと(0.5時間)	
	7	事前指導(居宅実習)				実習目的を把握しておくこと(0.5時間)	
	8	事後指導(居宅実習)				実習後、各自で実習の学びを振り返って臨むこと(1時間)	
	9	実習報告会(居宅実習)				種別の特性も踏まえた学びの共有ができるように準備すること(1時間)	
	10	実習報告会(居宅実習)				種別の特性も踏まえた学びの共有ができるように準備すること(1時間)	
	11	第三段階実習事前指導 担当者別指導				配属発表以後、施設について調べておくこと(1時間)	
	12	実習前指導(実習前面接)				実習の目的について明確にしておく(1時間)	
	13	実習前指導(実習前面接)				実習の目的について明確にしておく(1時間)	
	14	施設オリエンテーション				確認すべき内容についてあらかじめ調べておく(1時間)	
15	施設オリエンテーション				確認すべき内容についてあらかじめ調べておく(1時間)		
評価方法	(1)宿題・レポートを数回実施 (2)実習前面接や実習報告会で種別の特徴や実習での目標や学びが明確化できているか (3)出席状況では授業での態度(居眠り・私語や積極的な姿勢) 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	宿題・レポート		○		○		40%
	実習前面接・実習報告会		○		○		40%
	出席状況				○		20%
履修上の注意	出席が10回に満たない場合は、評価実施できない。授業態度が著しく悪い場合は出席とみなさない。自己学習をして授業に臨むこと						

科目名	居宅系実習						
科目名(英)							
単位数	1単位	時間数	56時間	担当者	大島・角屋・江下		
実施年度	2020年度	実施時期	前期	担当者実務経験	福祉施設で介護福祉士として勤務(大島・江下) 看護師として病院・クリニック・ケアマネとして居宅支援事業所勤務(角屋)		
対象学科・学年	介護福祉科2年						
授業概要	サービス利用者の生活の場として、居宅サービスを中心とする多様な場での介護を学ぶ。 在宅福祉サービスの役割を知る。						
授業形式	講義:	演習:	実習: ○	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○	○	○	○	施設の概要を理解できる。	
	○	○	○	○	○	業務内容を理解できる。	
	○	○	○	○	○	実習の意義・目的を理解できる。	
	○	○	○	○	○	地域社会と施設の関係について理解し、家族、地域への働きかけについて理解できる。	
○	○	○	○	○	介護福祉士としての職業倫理、社会的役割を理解できる。		
テキスト・教材 参考図書							
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	1日8時間×7日間 各実習先で実習。実習担当指導者、巡回教員による個別指導。				各領域において習得した知識・技術を統合する。	
	2						
	3						
	4						
	5						
	6						
	7						
	8						
	9						
	10						
	11						
	12						
	13						
	14						
15							
評価方法	評価項目は評価表に準ずる 利用者理解・コミュニケーション・実習態度・記録大項目。各小項目はA～E5段階評価。 施設点、教員点の合計が60点以下不合格。再実習の結果により再履修。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	施設評価	○	○	○	○	○	80%
	担当教員評価	○	○	○	○	○	20%
履修上の注意	100%出席をもって評価の対象となる。規定規則に定める時間数(3分の2以上)に満たない者については再実習となる。						



科目名	認知症の理解Ⅱ						
科目名(英)							
単位数	2単位	時間数	30時間	担当者	大島夕子		
実施年度	2020年度	実施時期	前期	担当者実務経験	福祉施設で介護福祉士として勤務		
対象学科・学年	介護福祉科 2年						
授業概要	認知症の理解Ⅰで学んだ、認知症の定義、歴史、変遷及び、認知症の症状、原因疾患の基礎知識をもとに認知症ケアの展開について学習する。認知症の人の生活を支えるうえで重要となる環境と生活援助との関係を活かした介護過程の実践を学ぶ。						
授業形式	講義: ○	演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				認知症のステージに応じた関わり方を理解し説明することができる。	
		○				認知症に人がその人らしく暮らすための援助の工夫ができる。	
		○				認知症に人を支える家族への支援について考え説明することができる。	
	○	○		○		認知症の理解に関する国家試験(模擬)問題の解説ができ8割以上の正答率となる。	
テキスト・教材 参考図書	中央法規 新・介護福祉士養成講座12 認知症の理解						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	認知症の人の体験の理解			テキストの該当範囲を読んでおく		
	2	認知症の人の生活の理解(環境)			テキストの該当範囲を読んでおく		
	3	認知症の人の生活の理解(生活の継続)			テキストの該当範囲を読んでおく		
	4	若年性認知症の人の生活理解			テキストの該当範囲を読んでおく		
	5	認知症の人に対する介護			テキストの該当範囲を読んでおく		
	6	認知症の人の介護過程①			テキストの該当範囲を読んでおく		
	7	認知症の人の介護過程②			テキストの該当範囲を読んでおく		
	8	認知症の進行に応じた介護(初期)			テキストの該当範囲を読んでおく		
	9	認知症の進行に応じた介護(中期)			テキストの該当範囲を読んでおく		
	10	認知症の進行に応じた介護(終末期)			テキストの該当範囲を読んでおく		
	11	地域の力を活かす			テキストの該当範囲を読んでおく		
	12	家族の力を活かす			テキストの該当範囲を読んでおく		
	13	認知症に関する制度・関係機関			テキストの該当範囲を読んでおく		
	14	国家試験(模試)問題					
15	前期定期試験対策						
評価方法	(1)授業の中で確認テストを実施する。(2)定期試験は(筆記)試験とする。 (3)宿題・レポート課題を提示する。(丁寧と取り組んでいるか、授業内容が活用されているか) 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	○	○				50%
	確認テスト	○	○				30%
	宿題・レポート		○		○		20%
履修上の注意	・確認テストについては、必ず提出すること。・授業中の居眠りは欠課とする。						

科目名	障害の理解						
科目名(英)	Understanding Disability						
単位数	4単位(2)	時間数	60(30時間)	担当者	森山 新治		
実施年度	2020	実施時期	通年(前期)	担当者実務経験	障害者施設・事業所 36年勤務		
対象学科・学年	介護福祉科 2年						
授業概要	介護福祉士が障害のある人と向き合うための基本的な知識を習得し、障害の概念、障害者福祉の基本理念や制度を理解する。 障害が及ぼす心理的影響や障害の受容、日常生活への影響について学ぶ。						
授業形式	講義: ○	演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○					障害に関する法律や福祉サービスについて説明することができる。	
	○					障害者福祉の基本理念や制度の改革について説明することができる。	
	○	○				障害のある人について医学モデルや社会モデルといった視点から説明することができる。	
	○	○				障害の特性について配慮した介護の根拠について説明することができる。	
			○			他者からの助言がなくても、利用者のもつ身体的、心理的、社会的側面へ配慮することができる。	
テキスト・教材 参考図書	最新 介護福祉士養成講座14「障害の理解」中央法規						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	障害の概念 障害のとらえ方				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと 授業の後は、必ずもう一度学習内容に目を通すこと	
	2	障害の概念 障害者の定義				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと 授業の後は、必ずもう一度学習内容に目を通すこと	
	3	障害の概念 ICIDHからICFへの変遷				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと 授業の後は、必ずもう一度学習内容に目を通すこと	
	4	障害者福祉の基本理念 ノーマライゼーション				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと 授業の後は、必ずもう一度学習内容に目を通すこと	
	5	障害者福祉の基本理念 リハビリテーション				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと 授業の後は、必ずもう一度学習内容に目を通すこと	
	6	障害者福祉の基本理念 インクルージョン				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと 授業の後は、必ずもう一度学習内容に目を通すこと	
	7	障害者福祉の基本理念 エンパワメント他				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと 授業の後は、必ずもう一度学習内容に目を通すこと	
	8	障害者福祉に関連する制度 障害者総合支援法				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと 授業の後は、必ずもう一度学習内容に目を通すこと	
	9	障害者福祉に関連する制度 障害者差別解消法				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと 授業の後は、必ずもう一度学習内容に目を通すこと	
	10	障害者福祉に関連する制度 障害者虐待防止法等				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと 授業の後は、必ずもう一度学習内容に目を通すこと	
	11	障害者福祉に関連する制度 障害者の就労支援				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと 授業の後は、必ずもう一度学習内容に目を通すこと	
	12	障害者福祉制度と介護保険制度				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと 授業の後は、必ずもう一度学習内容に目を通すこと	
	13	障害別の基本的理解と特性に応じた支援 障害のある人の心理Ⅰ				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと 授業の後は、必ずもう一度学習内容に目を通すこと	
	14	障害別の基本的理解と特性に応じた支援 障害のある人の心理Ⅱ				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと 授業の後は、必ずもう一度学習内容に目を通すこと	
	15	前期のまとめ				重要ポイントを再度確認するため、これまでのノートやプリント類を事前に整理しておくこと	
評価方法	(1) 授業の中で項目ごとに小テストを実施する。 (2) レポートを数回実施する。 (3) 定期試験を実施する。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	○	○				50%
	小テスト・レポート	○	○				30%
	出席状況				○		20%
履修上の注意	出席が10回に満たない場合は、定期試験の受験資格を与えない。 授業態度が著しく悪い場合は、出席とみなさない。						

科目名	こころとからだのしくみⅡ②						
科目名(英)	Body structure and function						
単位数	2単位	時間数	30時間	担当者	角屋 佳代		
実施年度	2020年度	実施時期	前期	担当者実務経験	看護師として病院・クリニックに勤務 ケアマネとして居宅支援事業所勤務		
対象学科・学年	介護福祉科 2年						
授業概要	障害や加齢による心身の変化や病態を理解するための基盤として正常な人体における解剖生理学の知識を習得し、介護サービスを提供する際の根拠を理解する。この授業は介護を必要とする人々の増加、ニーズの多様化の中で、専門性の基礎となる。心理学や医学一般の知識と関連づけて、利用者の生活を支える介護実践との関係を学ぶ。						
授業形式	講義 ○	演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○					介護技術の根拠となる人体の構造や機能について学び、関連した疾患の概要を説明することができる。	
		○				代表的な疾患や症状について説明することが出来る。	
		○				生活支援の場面において、そのひとつも身体機能や疾患へ配慮できる。	
		○				代表的な疾患や症状を知ったうえで、医療関係職種との連携・協力の重要性を説明することができる。	
			○			利用者の様子から、からだの状態変化に気づく観察の視点へと応用することができる。	
テキスト・教材 参考図書	「介護福祉士養成講座11こころとからだのしくみ」中央法規 「しくみと病気がわかる からだの辞典」成美堂出版 「7訂介護福祉用語辞典」中央法規						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	1年時の振り返り			確認テストを実施するので、復習しておくこと(60分)		
	2	食事に関連したこころとからだのしくみ: 食事に関連したこころとからだの基礎知識			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと(15分)		
	3	食事に関連したこころとからだのしくみ: 機能の低下・障害が及ぼす食事への影響			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと(15分) 授業後は学習内容の振り返りをしておくこと(15分)		
	4	食事に関連したこころとからだのしくみ: 生活場面におけるこころとからだの変化の気づきと医療職との連携			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと(15分) 授業後は学習内容の振り返りをしておくこと(15分)		
	5	排泄に関連したこころとからだのしくみ: 排泄に関連したこころとからだの基礎知識			確認テストを実施するので、復習しておくこと (30分) 教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと(15分)		
	6	排泄に関連したこころとからだのしくみ: 機能の低下・障害が及ぼす排泄への影響			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと(15分) 授業後は学習内容の振り返りをしておくこと(15分)		
	7	排泄に関連したこころとからだのしくみ: 生活場面におけるこころとからだの変化の気づきと医療職との連携			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと(15分) 授業後は学習内容の振り返りをしておくこと(15分)		
	8	睡眠に関連したこころとからだのしくみ: 睡眠に関連したこころとからだの基礎知識			確認テストを実施するので、復習しておくこと (30分) 教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと(15分)		
	9	睡眠に関連したこころとからだのしくみ: 機能の低下・障害が及ぼす睡眠への影響			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと(15分) 授業後は学習内容の振り返りをしておくこと(15分)		
	10	睡眠に関連したこころとからだのしくみ: 生活場面におけるこころとからだの変化の気づきと医療職との連携			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと(15分) 授業後は学習内容の振り返りをしておくこと(15分)		
	11	死にゆく人のこころとからだのしくみ: 「死」の捉え方			確認テストを実施するので、復習しておくこと (30分) 教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと(15分)		
	12	死にゆく人に関連したしくみ: 終末期から危篤、死亡時のからだの理解			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと(15分) 授業後は学習内容の振り返りをしておくこと(15分)		
	13	死にゆく人に関連したしくみ: 医療職との連携			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと(15分) 授業後は学習内容の振り返りをしておくこと(15分)		
	14	まとめ			重要ポイントを再確認するため、これまでのノート・プリントの整理をしておくこと(60分)		
15	前期試験対策			重要ポイントを再確認するため、これまでのノート・プリントの整理をしておくこと(60分)			
評価方法	(1)授業の中で5回以上小テストを実施する。正答率80%未満であれば補講および再テストを実施する。 (2)宿題・レポートを数回実施する。(3)定期試験(筆記)を実施する。(4)授業には積極的に参加すること 以上を下記の観点・割合で評価する。成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	○	○				50%
	小テスト	○	○				30%
	宿題・レポート	○	○		○		10%
	出席状況				○		10%
履修上の注意	出席が10回に満たない場合は、定期試験の受験資格を与えない。授業態度が著しく悪い場合は出席とみなさない。						

科目名	医療的ケア(演習)						
科目名(英)							
単位数	2単位	時間数	30時間	担当者	角屋 佳代		
実施年度	2020年度	実施時期	通年	担当者実務経験	看護師として病院・クリニックに勤務 ケアマネとして居宅支援事業所勤務		
対象学科・学年	介護福祉科 2年						
授業概要	1年時に習得した医療的ケアの基本的な知識をもとに、医療的ケアの基本的手技を習得することを目的とする。各々の手順を5回ずつと応急手当1回を実施評価する。						
授業形式	講義:	演習: ○	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○					医療的ケアの実施に必要な知識・手順について説明できる	
			○			評価項目の手順通りに喀痰吸引・経管栄養の実施ができる。	
		○	○			利用者の心身の特徴に配慮した声掛けや観察が行える。	
			○			応急時に必要な一連の処置が実施できる。	
			○			準備や後片付けなど周囲の状況を見て自ら動くことができる。	
テキスト・教材 参考図書	メヂカルフレンド社 最新介護福祉全書13 医療的ケア 中央法規 介護福祉士養成講座 こころとからだのしくみ						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	1年次 講義内容の振り返り				1年時の学習内容を確認しておく(1時間)	
	2	使用物品、手順の確認				医療的ケアに必要な物品をテキストで事前に確認しておく	
	3	吸引・経管栄養 グループ演習				授業の前にテキスト・DVDにて手順を確認しておく(10分)	
	4	吸引・経管栄養 グループ演習				授業の前にテキスト・DVDにて手順を確認しておく(10分)	
	5	吸引・経管栄養 グループ演習				授業の前にテキスト・DVDにて手順を確認しておく(10分)	
	6	吸引・経管栄養 グループ演習				授業の前にテキスト・DVDにて手順を確認しておく(10分)	
	7	吸引・経管栄養 グループ演習				授業の前にテキスト・DVDにて手順を確認しておく(10分)	
	8	吸引・経管栄養 グループ演習				授業の前にテキスト・DVDにて手順を確認しておく(10分)	
	9	吸引・経管栄養 グループ演習				授業の前にテキスト・DVDにて手順を確認しておく(10分)	
	10	吸引・経管栄養 グループ演習				授業の前にテキスト・DVDにて手順を確認しておく(10分)	
	11	吸引・経管栄養 演習 確認テスト				授業の前にテキスト・DVDにて手順を確認しておく(10分)	
	12	吸引・経管栄養 演習 確認テスト				授業の前にテキスト・DVDにて手順を確認しておく(10分)	
	13	吸引・経管栄養 演習 確認テスト				授業の前にテキスト・DVDにて手順を確認しておく(10分)	
	14	吸引・経管栄養 演習 確認テスト				授業の前にテキスト・DVDにて手順を確認しておく(10分)	
15	吸引・経管栄養 演習 救急蘇生法				救急時の対応について1年時の学習内容を確認しておく(15分)		
評価方法	評価項目すべて5回ずつの評価をうけ合格することで、基本研修(演習)修了とする。 1回目の評価が合格した時点で残りの評価を受けることができる。5回目の評価が不合格であった場合は合格するまで評価を受ける必要がある。実習態度は身だしなみ・準備、片付けなどの積極的な姿勢を評価する						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	実施評価	○	○	○			70%
	実習態度			○	○		30%
履修上の注意	評価をうけるためには、自主練習を行ってから臨む。演習では服装を整え、真剣に演習を行う。実習室での私語は慎む。以上のことが出来ていない学生は演習中止とする。						

科目名	GCB II						
科目名(英)	Giobai Citizen Basic						
単位数	1単位	時間数	16時間	担当者	大島夕子		
実施年度	2020年度	実施時期	前期	担当者実務経験	福祉施設にて介護福祉士として勤務		
対象学科・学年	介護福祉科 2年						
授業概要	(1) 充実した人生を送る人たちの考え方にたくさん触れる(2) 力のあるメッセージにたくさん触れる。(3) 歴史世界の動き、日本の課題、若者の意識などデータや情報と向き合う。(4) 先輩やきらすめーとたちの考え・意識に触れ、自分自身を振り返る。						
授業形式	講義: ○	演習: △	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
				○		1. 考えることの大切さを知る。	
	○					2. 自分の言葉で伝える大切さを知る。	
				○		3. 目標の大切さ、志の大切さを知る。	
				○		4. 行動する大切さに気づく。	
テキスト・教材 参考図書	GCB II 学生用テキスト						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	グローバルシティズンと志					
	2	なぜ志を立てることが大切なのか			振り返りレポート作成		
	3	自己を知る			振り返りレポート作成		
	4	伝える力を学ぶ(1)					
	5	伝える力を学ぶ(2)			振り返りレポート作成		
	6	与えられた一度の人生に感謝し、心高く生きる			振り返りレポート作成		
	7	自己の大切さと責任を自覚する					
	8	GCB IIを受講して、感じたこと、気づいたこと、学んだこと			振り返りレポート作成		
	9						
	10						
	11						
	12						
	13						
	14						
15							
評価方法	(1)レポート提出 (2)グループワークに参加し自分の考えを発現する(グループワーク時) (3)3分の2以上のの出席をすること 成績評価はR評価とする						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	宿題・レポート	○	○		○		40%
	発表				○		40%
	出席率					○	20%
履修上の注意	他者の意見を否定せず受け入れること。 レポートは丁寧な字で記入すること。						